

理科演習 I

単位数	2 単位	対象学年	2 学年	対象コース・クラス	看護
使用教科書	改訂版新編生物基礎（数研出版）	副教材等	看護系受験問題集 生物基礎＋生物（数研出版）		

1. 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、観察、実験などの基本操作を理解し、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2. 到達目標に向けての具体的な取り組み

中学校理科、1年次に履修した科学と人間生活、2年次に履修する生物基礎との関連を十分考慮するとともに、日常生活と関連付けて身近な生物や生物現象についての理解を行わせ、科学的な見方や考え方を育成する。

3. 学習上のメッセージ

予習・復習をしっかりとすることで知識が定着していきます。教科書をしっかりと読んで重要語句を確実に理解し、整理することが大切です。問題演習用のノートを作って、定期試験の前にはしっかりと苦手な部分を復習しましょう。理解することが難しい問題は答えや語句をただ丸暗記するのではなく積極的に質問をして理解を進めましょう。

4. 評価の観点・方法（年間の評定）

評価は次の4つの観点から行う。

関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などの基本操作を理解するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

評価は次のように行う。

- ①年5回の定期考査
 - ②授業中板書を写したノートやプリント、問題演習課題の提出
 - ③広島桜が丘高等学校の生徒として規則に則った服装での学習活動の参加状況
- 1年間の評定は、定期テストを70%とし、残りの30%は授業に取り組む姿勢、提出物、学習態度、小テスト等を総合的に判断して評価する。

5. 学習内容と評価について

教科名	単元	指導内容と評価のポイント
理科演習 I	生物の共通性と多様性	生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解する。
	エネルギーと代謝	生命活動に必要なエネルギーと光合成や呼吸などの代謝について理解する。
	遺伝子とその働き	遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴やDNAが複製され分配されることにより遺伝情報が伝えられること、DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。
	体内環境としての体液	体内環境が保たれていることを理解する。
	神経とホルモンによる調節	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。
	免疫	免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解する。
	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことや気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解する。
	生態系とその保全	生態系では物質が循環するとともにエネルギーが移動することや生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識する。

